

# 自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かせましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム本荘やすらぎ苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	由利本荘市石脇字山ノ神11-383
記入者名 (管理者)	東海林 澄子
記入日	平成20年11月1日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	在宅介護を基本理念とし、代理家族として温かいホーム作りをめざしている	○  地域の中で、個々の出来る事は何か、どのように関わって行くのがベターなのか今後取組んでいきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を掲げ（玄関と事務室）理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の実現に向けて、毎朝、理念の唱和をしている
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約時に本人や家族に説明を行い、折りに触れ理解を仰ぐように取り組んでいる	定期的な「運営推進会議」や見学者、ボランティアに折りに触れ説明している
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣との挨拶、声かけ等を常時している	散歩時に庭を見せてもらったり、花や苗等頂いたり、近隣や町内の皆さんとの交流を大事にしている
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており地域活動に参加するように心がけている	5月のお祭りには苑庭での山車と子供達の踊りと休憩が恒例になっている。又、子供会（少年会）の夏休みのボランティアも恒例となっており、双方楽しみのひとつになっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いに留まり、今の所進展はない	○	今後、苑の取り組みとして、一人暮らしや、高齢者等にどのように関わっていけるか取組んで行きたい
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に1度の自己評価に限らず、問題点があればその都度改善に向けて取り組みをしている	○	月に1度（月末）の全体会議の時に、運営者とも話し合い、改善に向けた努力をしている
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催しサービスの向上を目指している		現在のメンバーに加え色々な分野の人達に参加してもらい裾野を広げて行きたい
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要があればその都度連携をし質の向上に取り組んでいる		今後も必要に応じ共に連携を取って行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じ取組んで活用出来る様にしている	○	「権利擁護」や「成年後見制度」の講習を未受講の職員には、今後機会があったら受けさせたい
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に注意を払っている	○	虐待防止に関する講習を順次職員に受けさせたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>契約時は一度に沢山の説明や書類があり、家族も覚えきれなかったり、忘れていたりしている事も多いので、機会をみて（必要に応じて）確認をとるようにしている</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>折りに触れ（ケアプランの見直し時）利用者、家族の意見、希望、苦情等打診し改善に向けた努力をこれからも続けて行きたい</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>今後も家族への手紙や苑便りは続けて行きたい</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>今後も折りに触れ、本人や家族に打診し、運営に活かすようにしたい</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>定例の全体会議は今後も行って行きたい。又必要があればいつでも臨時招集をかけ、全体会議を行う用意がある</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>利用者の状況に応じて職員の勤務体制は柔軟に交代制を取り入れている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として、当苑は移動はない		介護者が退職時には、ダメージやショックを受けないように配慮している
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次計画をたて順次講習やステップアップ講習を受けさせている	○	公の講習以外にも機会があれば積極的に今後も参加させたい
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域や同業者との交流があるが、職員はそれ程ではない	○	グループホームのネットワークはかなり出来ており定期的な勉強会や交流に職員を参加させている
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務が過重にならないように、又仕事の悩みを一人で抱え込まないように取り組んでいる	○	パートタイマーをうまく回して、業務が過重にならないよう、シフトを組んでいる。ストレスについては特に取り組みはしていないが個人差があるので、ストレスを抱えているスタッフには今後取り組んで原因をつきとめ、解消するようにしたい
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績、勤務状況は把握しており働き易いように努めている	○	左記に同じ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前、入居後も安心して苑で暮らせるよう折りに触れ又は、ケアプランの見直し時等、本人からの聴く機会をつくっている	入居前に見学をしてもらい、相談等してもらっている
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前や、入居後、特に最初の頃は不安が大きいため傾聴と安心するよう説明を心がけている	入居前の十分な聞き取りや入居後の利用者の様子等、お知らせしたり、ケアプランの見直し時によく話しを聴いて安心するようを心がけている
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応としては、まず必要な事を見極め対応に努めている	左記に同じ
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	最初はとにかく苑になじんでもらい慣れてもらう事を優先させ相談しながら少しずつサービスを行って行く	最初は暫定プランとして2週間の様子を見てから本人家族と相談し除々に本プランに入るようにしている
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	代理家族である事を常に忘れず支え合いを大事にしている	人生の大先輩として、お互いに学び合い、尊敬しあって協力しながら支援して行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しても、同一である		家族等からの相談があれば助言や方向性を示したり、出来る限りの支援をしている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	良い関係が築いていけるよう支援している	○	来苑を通じ、今まで以上により良い関係が保たれるよう支援していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係を大切にする支援に努めている		これまで利用していた美容院や馴染みの床屋さんや友達との関係を維持するように支援している
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いに孤立しないように支援している		食事時やおやつ時は自室に居る人をお互いに迎えにいたり、呼びに行ったりしている
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて関係を切らないように取り組んでいる		左記に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添って暮らしてもらっている	○ 中年の認知症の場合、自分は老人ではないとの自覚が強く、余り苑の行事や、老人との外出を好まないため、強制はせず本人の気の向いた時に行うようにしてもらっている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前も入居後も把握に努めている	入居前の十分な聞き取りや情報収集や家族やサービス事業者、関係者等、経過を聞き把握に努めている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタルチェック（血圧測定、排便のチェック等）から始まり経過を追っての個々の状況や心身の変化の把握、一日の過ごし方の把握に努めている	左記に同じ
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の希望を取り入れ課題分析を行い作成している	本人や家族、関係者、苑のスタッフと話し合い計画を立てている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや必要性に応じたケア計画を作成している	ケア計画の見直しは短期で1ヶ月毎に行っているが変化が生じた時や急きょ見直しが必要な時はその都度関係者と話し合い現状に即した計画に心がけている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に基づいて見直しに活かしている		朝の引き継ぎ、ミーティング時、夕の夜勤との引き継ぎ時の他に随時、気がついた時に色々な話し合い検討をしてケア計画に活かしている
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やか家族の要望を取り入れ柔軟な支援を心がけている		左記に同じ
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	多方面の方達の協力により支援している		運営推進会議のメンバー（町内会長さん、老人クラブの会長さん、民生委員さん、社協のケアマネージャーさん）の他に、地域のおまわりさん、町内会の皆さん、近くの小学校のボランティアの皆さん、避難訓練の消防署の皆さん、往診の先生の協力を仰いでいる
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて取り組み支援をしている		左記に同じ
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて取り組み支援をしている		左記に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		本人と家族の希望を取り入れ主治医やかかりつけの医者に往診してもらっている。薬剤師とも、いつでも相談にのってもらえる
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		定期的に専門医の受診をしたり、紹介してもらったり、いつでも相談できるようになっている
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		地域や仕事仲間に見守りや看護師や薬剤師が沢山居りいつでも気軽に相談出来る状況にある
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		家族にも協力してもらおうが、苑としても早期の退院を目指して、主治医は勿論の事、担当の看護師や、病状によっては、ケースワーカーと連絡を取り本人に最良の方法に心がけている
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		以前は重度や終末に近い人も受け入れたが、最近は終末期の人は受け入れていないが、1年毎に重度化しているので家族にはその過程を順を追って説明して今後どうされるか、話し合いをしたり、主治医に相談したり、話し合ったり、スタッフとも話し合い共有している
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		家族との密な連絡や主治医と共に検討や準備を行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いを持ちながら、不安を解消できるよう努めている		入居前に必ず本人にも見学してもらい、本人に納得してもらい利用してもらって、住み替えのダメージをなるべく緩和し又、家族やケア関係者とは十分に話し合い行っている
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは原則として敬語を奨励している		事務室の介護記録の名前はアルファベットで記入し、自分の物と分からないように配慮したり、事務机上の利用者の名前のある物は常に裏返して置くように配慮している
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	誘導や助言による働きかけを心がけ、些細な事でも本人の意志を尊重して物事を行うように支援している		左記に同じ
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望に添うように支援している		苑の原則としては3度の食事と午前、午後のおやつには食堂に出てきてもらうが、それ以外は自由に過ごしてもらっている
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分の好きな服を自分で選んでもらい着てもらっている。又、美容院や床屋も本人の希望の所を利用している		着るものはスタッフが選んだりせず、外出時等、助言を求められた時は、支援している。又理美容院は、家族が同行したりスタッフが連れて行ったり、本人や家族の希望を聞き色々な形で支援している



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じてお金の所持の支援をしている		常時自分で所持している人もいるが、大半は苑で預かっており、外出や通院時に持ち出し本人と相談しながら所持してもらっている
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑庭には自由に出ており、散歩や買い物等なるべく希望に添って戸外に出かける支援を目指している		苑庭はもとより、なるべく希望に添うように頻繁に近所の散歩に出かけている
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会ある毎に外出やドライブを行っている。気の合った人同士の外出も心がけている	○	年に1度の遠足は利用者の希望に応じて実施している。又、家族はいつでも自由に一緒に出かけてもらっているが今後、家族の皆さんに声かけて遠足等行きたい
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話を使えるようにしている。自分でかけられない人には職員が取り次ぎをしてかけている		毎年の年賀状を家族や知人に書いてもらっている。自分で手紙を書くのが苦手な人には助言や代筆でだしている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑者が気軽に過ごせるように、居間や和室、縁側を開放して利用してもらっている		運営者と相談して、苑庭でも過ごせる工夫を今後検討して行きたい
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として「身体拘束をしない」ケアに取り組んでいる		身体拘束をしないケアを引き続き実践していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にはセンサーを取り付けており、鍵をかけないケアに努めている		認知症が重度で入居している事を忘れて離脱しようとする時は、時には鍵を使用する時もある
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の巡回、朝のバイタルチェック時、3度の食事時、10時と午後3時のおやつ時の他に不定期の訪室により所在の確認、様子の把握、安全に配慮している		定期巡回の他に不定期の訪室も安否確認を含め頻繁に行っている
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力に応じて、見守りをしながらハサミやカッター、T字カミソリ等を使用させている		編み物の好きな人は、いつでも自由に編めるようにしているが、針の管理が徹底できない場合は見守りを行い安全に配慮している
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に事故防止に取り組んでいる		転倒防止体操を取り入れ毎朝出来る時に行っている。窒息、誤薬防止チェック、行方不明については地区の派出所に依頼したり苑たよりを配布したり不明時に対応してもらっている
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に備え、常にデスクサイドにマニュアルを置き初期対応に備えている。実践訓練を定期的には行っていないが、救命講習を受けている		今後、パートを含め、全ての職員に定期的に実践訓練を行いたい
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練の他に災害時は玄関以外にどこからでも避難できる事を、折りに触れ、働きかけている。	○	今後も定期的に避難訓練を行い、地域の人々にも協力していただけるよう働きかけていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時は勿論の事、必要なその都度に応じてリスクを説明しその対応策を話しあっている		自傷、他傷の恐れのある利用者に対してはその都度家族と連絡をとったり主治医に相談したり、なるべく、本人には抑圧感を抱かせず、支援している
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック時や日常の異変を見逃さず速やかな対応を行っている		往診の先生にいつでも相談出来るので、即、対応している
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に理解を深めて、確認に努めている		薬に変更（病状に変化）があった時などは回覧をしキチンと認識をもらい月日とハンコを押している
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を予防するために、適量な水分摂取や繊維質の食材に心がけ、適当な運動、散歩等に取り組んでいる		頑固な体質の人は主治医に相談し、人によっては1～3錠の便秘薬で対応している。又、自分で調節可能な人は申し出によりスタッフと相談しながら行っている
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に応じた口腔ケアを行っている		今後も個々に応じた支援に努めていきたい
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた摂取カロリーや水分量を取れるように配慮している		自分でお茶を入られる人は10時と3時以外でも好きな時に入れて飲めるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策に取り組み、常時デスクサイドに資料を置き、即対応出来るようにしている		最近、保健所主催の感染症対策「ノロウイルス」の講習を受けたスタッフがいるので、実演を含め全員に周知したい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理員が定期的にチェックを行い調理器具等の衛生管理や新鮮で安全な食材に努めている	○	調理員は勿論の事、調理に入るスタッフも、日々食材の賞味期限や、食品の鮮度や、地元の安全で新鮮な食材の購入に心がけかつ、使用器具の殺菌漂白と衛生管理に努めている
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の通りには季節の花を植え、周りには色々な柑橘類の木々で利用者や来訪者に安心して、喜んでもらう工夫をしている		玄関前の段差等は、声かけや誘導にて安全に出入りや歩行をしてもらっている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には季節の花を飾ったり、トイレ、浴室は換気扇を回し、芳香剤も活用し、光はカーテンやブラインド、すだれで配慮している		よく暮らせるよう工夫している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間（兼食堂）や和室や縁側等、一人でも、気の合う仲間とでも過ごせるようになっている		個々の好きな時間に好きな場所でそれぞれ過ごしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自室には本人の希望のものをもって来て使用して もらっている		本人の希望により、テーブルを持ち込んだり、雑 誌や本や小物を自室に置いて楽しんだりしている
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎朝こまめに窓を開け空気の入換えを行って いる		温度調節は個々に応じてその都度こまめに行っ ている
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の身体機能に応じて自立出来るように工夫し ている		個々の身体機能に応じて自立出来るようにベッ トの脇に安全棒等取り付けて工夫している
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の能力に添って自立して暮らせるよう援助し ている		一人ひとりに応じた支援を心がけている
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	苑庭で自由に過ごしたりして楽しんだりしている		苑庭で自由に過ごしたり、畑に野菜を植えたり、 好きな草花を植えたり、それを縁側で眺めて楽し んだり、時には、草取りをしたり、水をかけたり して、楽しみながら活動している

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ○ ②数日に1回程度 ○ ③たまに ○ ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・家庭的な温かいホーム創りで利用者に安心と安らぎを与えるように取り組んでいる      ・転倒防止運動に取り組んでいる。又、出来るだけ毎朝の体操を行うようにしている  
・不快な臭い（尿臭や老臭）がなく、来苑者にそれを感じさせていない      ・食事の面では、家庭的に 香りで楽しんだり、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、利用者が植えて育てた野菜を食卓に出している。又、裏山では山菜が手軽に取れるので、収穫や食事を楽しんでいる      ・色々な面で本人の意志を尊重して物事に取り組んでいる  
・希望により時々外食をしている